

令和8年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・表現するために必要な語句を身に付け、身に付けた語句を使って適切に文章表現をする資質・能力	・東京都の平均点数よりも点数が低いものは、「知識・技能」では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」である。 「思考力、判断力、表現力等」では、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」である。 ・問題形式から見ると、「記述式」が東京都、全国の平均よりもかなり低い平均値となっている。 ・グラフから「書くこと」が苦手な児童が多いことが顕著に分かる。自分の考えを相手に伝えるためにどう書き表せばよいのかの基礎・基本の技能を身に付けること、書くことに必要な情報を集めてどのような順序で書けばよいかを理解することが課題である。	・短い文でも良いので、文を書くことに慣れ親しんでいく。 ・読書活動を取り入れて、語彙や言葉の使い方や意味を正しく理解して使うことができるようにする。 ・話し合いの時のメモをどのようにとれば効果的なのかを実践的に行って習得する。 ・情報の収集の仕方や使い方を理解する。 ・書いたことを互いに読み合い、深め合う時間を設ける。
社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・学習問題の解決のために必要な情報や資料を読み取る資質・能力	・全般的に資料の読み取りにおいて、児童の能力に差がある。そのために、情報を読み取り、集める力を伸ばしていく必要がある。	・ICT等を積極的に活用して、視覚的に資料を提示し、学習課題を捉えやすくする。 ・興味関心が高い単元で、少人数のグループを構成し、一人一人が主体的に参加できるようにして、資料から事実を記述させる。
算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用する資質・能力 ・図・式・表を用いて筋道を立てて考え、根拠を明らかにして説明する資質・能力	・都・全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容は概ね定着している。 ・「思考・判断・表現」は、「知識・技能」と比べて低く、問題の意味を捉えて必要な情報を整理し、説明する力に課題がある。 ・領域では「測定」が都平均を下回る。無回答率からは、粘り強く取り組む態度にも課題が見られる。	・算数少人数習熟度別指導(第3～6学年)を年度末まで継続し、個に応じた支援を行う。 ・ドリル等による反復学習で既習事項の定着を図り、つまづきには個別指導を行う。 ・低学年では、動作化や操作活動を取り入れて問題場面を理解させる。中学年以降は、問題場面と図・表・式を関連付けて考えさせ、説明する場面を意図的に設ける。 ・「測定」「変化と関係」については、実測や体験的な活動、日常生活の場面と関連付けた問題を扱い、量感や数量関係の理解を深める。 ・ICT 機器やデジタル教科書、タブレット端末を活用し、視覚的に理解しやすくするとともに、互いの考えを共有できるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	・自然に親しみ、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する資質・能力	・実験結果を表やグラフなどで分かりやすく記録したり、実験結果をもとに考察したりすることが、課題となっている。	・児童にとって身近な課題となるよう、自然事象との出会いの場面を工夫し、生活経験に結び付けて考えることができるようにする。 ・児童の興味・関心を引き出していけるよう、自分の考えを相手に伝え合う場面を多く設けるとともに、気付きや自分の考えをノートやワークシートに、図や言葉を用いて表現する活動を設けていく。 ・記録をしっかりとるなど、学習内容を定着させる。 ・ICT 機器を活用し、視覚的に分かりやすい学習をしたり、自分の考えを共有したりする。 ・サイエンスアシスタントを活用し、指導法を共有して指導する。
生活科	・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現しようとする資質・能力	・関心、意欲、態度は高いが主体的に学びを深めようとする意欲がやや低い傾向がある。 ・観察シートなどに気付きや発見を記入することが少なく、個人差が見られる。	・実際に見たり触ったり出会ったりするような場を工夫することで、児童が「こうしたい。」という思いや願いを膨らませ、主体的に活動できるようにする。 ・異学年との交流や認め合いの場、ワークシートなどを用意し、自分や友達の活動のよさに目を向けさせたり、伝え合ったりする機会を設けることで、新たな気付きや発見が生まれるようにする。
音楽	・表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力	・表現したい意欲と表現する技能が合っていないため、技能面を高めていく必要がある。 ・発言する児童が固定化されやすいため、ペア学習やワークシートなど個々の考えを出しやすい環境にする必要がある。	・表現及び鑑賞を通して思考力、判断力、表現力、知識、技能を相互に関わらせながら一体的に育成する。 ・自分の思いや意図を表現に生かせるように発問や場の設定、さらには、児童が安心して表現できる環境、自己のふりかえり、聴き合う場などの場の設定の充実を図る。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力	・自分の表したいものを見付けたり、工夫して表したりすることに課題がある。 ・学んだことを次の学習や生活に活かそうという考えにつながらない。	・児童の思いを聞き取って助言をしたり、友達の考えを共有したりして、発想を広げられる場面を設ける。 ・発達段階に沿った様々な材料や用具等による造形活動の充実を図る。 ・タブレット端末を活用し、振り返りや鑑賞の時間で、自分や友達の考え・作品のよさを共有する時間を多く設ける。
家庭	・家庭の中での自分の役割を見付け、できることから取り組もうとする資質・能力	・裁縫や調理の経験や技術に個人差がある。 ・家庭の中で経験を活かせることは理解していても、実際に実現することが難しい児童も多い。 ・調理に関してはより身近な活動であるため、自主的に取り組める児童が多い。	・自分の生活を振り返らせ、裁縫や調理など、身の回りで取り組みそうなことを考えられるようにする。 ・家庭内の仕事を話題に挙げ、作品やカードなどで発表する機会を設定する。 ・裁縫やミシンの学習では、授業のはじめに使い方を確認する時間を設ける。教科書の「いつも確かめよう」を活用させたりして、技術を定着させる。
体育	・すすんで運動に親しむ資質・能力 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断する資質・能力	・体力テスト結果から、全体的に握力、長座体前屈、反復横跳び、ソフトボール投げが低い傾向が見られる。 ・運動が苦手だと感じる児童も、意欲的に運動できる場の設定や用具の工夫をする必要がある。	・体育の授業で、固定遊具を使った運動、柔軟性を高める運動、投能力を伸ばすための運動などを意図的に取り入れる。各種の基本的な動きや技能を身に付けられるように、各運動(運動遊び)の動きや技のポイントを明確にした場を設定する。 ・課題を解決するために、自分で練習の場を選んだり、友達と協働したりして解決することができるような学習活動を設定する。

令和8年度 授業改善推進プラン

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・英語に親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする資質・能力	・その授業で学習しているキーセンテンスを使用して、決められた会話をすることはできるが、自分がすでに知っている言葉や表現も活用して、自分のことをより相手に伝えようと工夫する姿勢はまだ十分に身に付いていない。 ・英文やアルファベットを読んだり、書いたりすることにはまだ課題が残る。	・歌など、英語の音の流れを楽しめるような活動で外国語学習への意欲を高め、積極的に英語を聞き、繰り返し言うことで、すすんで英語に慣れ親しもうとする態度を育成する。 ・キーセンテンスを使う場面や目的が明らかなアクティビティを、児童の実態や興味・関心に合わせて設定することで、実践的なやり取りを通して英語表現を身に付けられるようにする。 ・文字を見せながら読み聞かせたり、文を読ませたりする指導を丁寧に行い、書くことへの指導につなげる。
道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・国際社会を力強く生きる児童を目指し、向上心と柔軟性をもち、共生しようとする資質・能力	・学年が上がるにつれ、教材文から課題を見出すことはできるようになってくるが、その課題を実生活と結びつけて考えたり、自分の問題として深めたりすることは難しい。 ・教材の内容や登場人物の気持ちは理解できるものの、それを自分の生活と結び付けて考える力が弱く、友達と考えを比較したり、多面的に物事を捉えたりする力も十分に育っていない。	・ワークシートやノートを活用し、考えたことや感じたことを詳しく書かせる。話し合い活動では、時間を十分に確保し、お互いの考えを共有し、広げられるようにする。 ・児童の気づきや思いをしっかりと認める声掛けを続ける。 ・友だちと自分との違いについて気づいたり、実生活と照らして考えたりできるようにする。
特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・実社会や実生活の中から問題を発見し、疑問をもち、その課題を解決する資質・能力	・意見を交流し、友達の考えをもとにより良くしようとする意識が低い。 ・疑問や気づきから児童が課題を立て、解決することが難しい場合がある。	・目的意識をもって課題解決できるよう、ワークシート等を活用し、学習の見通しをもって取り組めるようにする。 ・学び方や表現の仕方について、事例を挙げ、児童が選択できるようにもする。 ・タブレット端末のプレゼンテーションソフトを利用して、まとめる力や表現する力が付くように指導する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・実社会や実生活の中から問題を発見し、疑問をもち、その課題を解決する資質・能力	・中学年において疑問や気付きから児童が課題解決するための見通しや計画を立案することが難しい場合がある。教科理解を深めていく必要がある。	・目的意識をもって課題解決できるよう、ワークシート等を活用し、学習の見通しをもって取り組めるようにする。 ・学び方や表現の仕方について、事例を挙げ、児童が選択できるようにしたり、個人活動・グループ活動など多様な活動方法も選択できたりするようにする。 ・タブレット端末のプレゼンテーションソフトを利用するなどして、多様な方法でまとめる力や表現する力が付くように指導する。 ・外部講師を招いて、深く学習をすすめていけるようにする。